令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果について

本年度実施した全国学力・学習状況調査（小学校６年生・中学校３年生対象）の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

（１）教科学習状況調査結果「平均正答率（%）」

	国語	算数
屏風浦小学校	７１％	７１％
横浜市	（本年度は公表せず）	
神奈川県	６６％	６３％
全国	６７．２％	６２．５％

【教科学力について】

「国語」「算数」ともに、全国、神奈川県の平均正答率を大きく上回る結果となった。とくに「算数」においては、「選択式」「短答式」「記述式」いずれの問題形式においても、平均を５％以上 上回っており、「記述式」においては１３％近く上回っている。思考・判断・表現に関する問題の正答率も高く、知識や技能を活用して課題を解決する力が高いと言える。一方、「国語」においては、「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」という趣旨の問題についての正答率が低かった。全体的に学力は高い水準にあるが、国語科においては、「読むこと」や「読み取った内容を自分の言葉で表現すること」の正答率を高める学習をしていく必要がある。

全設問の半数（国語　１４問中７問、算数　１６問中８問）正答できなかった児童が、国語で１４．８％、算数で２４．２％見られた。算数科における学力の開きが大きく、少人数指導など児童の実際に応じた学習形態をより一層工夫していく必要がある。

（２）質問紙調査結果

【学習に対する興味・関心について】

「国語」「算数」ともに平均を大きく上回っている。この結果は、学力の値とも相関が見られる。今後も引き続き、児童の興味・関心を高める学習を進めていく。

「英語の学習は好きか」という問いに対しては、「やや好きではない」「好きではない」と答えた児童が半数を超えており（５０．５％)、全国や県平均と比べても、学習に対する興味・関心の低さが目立っている。外国語に対する関心を高める学習を行っていく必要がある。

【規範意識・自己有用感について】

「自分には、よいところがあると思うか」という質問に対しては、８割を超える児童が「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」と答えており、全国や県の平均を上回っている。一方で、「どちらかと言えば、そう思わない」と答えた児童がＩ４．４％と全国平均を５％程度上回っており、自己有用感が高くない児童も多くみられることから、大きな開きがあると言える。

「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」については、９９％の児童が「その通り」と答えている。「人が困っているときは、進んで助ける」についても「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」の合計が９４％をこえている。

「将来、人の役に立つ人間になりたいと思うか」の問いに対しては、７％弱の児童が「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」と答えており、全国や県の平均と比べて否定的意見の児童が多い傾向にある。道徳科の学習の充実や横浜プログラムなどを用いた自己有用感を高める学習を進めていく必要がある。

【生活習慣・学習習慣について】

「家で、自分で計画を立てて勉強している」については、８割近い児童が「している」「どちらかと言えば、している」と答えており、全国や県の平均を大きく上回っている。また、家庭での学習時間についても、「３時間以上」「２～３時間」の児童が多く、全体の３割を超えている。これも、全国や県の平均を大きく上回っている。

一方、「全くしない」と答えた児童も平均より多く、学力差の一因と考えられる。家庭学習の課題の課し方等について、教職員で共通理解を図って進めている必要がある。